

## 平成29年度第三学期修了式校長講和

平成30年3月20日

平成29年（2017）年度も終わりに近づきました。今年度は冬季オリンピック・イヤーとなり、さまざまなジャンルで手に汗を握る試合を観戦することができました。私は常に思うことですが、スポーツに限らず、何か一つのことにひたすら打ち込んでいる人の姿は、見る人に心からの感動を与えます。

さて、高校3年生はすでに卒業し、この広い体育館も少し寂しがつているように思えます。みなさんも部活動や全てではないにしてもクラス編成上、これまで友情を育んできた友人と違う環境に身を置くことになる人もいると思います。友情とは、友達間の情愛とか友達のよしみをいうと広辞苑にはでていますが、真の友情を育てることはなかなかむずかしいと思います。

これは私だけの感覚かも知れませんが、今日の生徒同士の付き合いは、表面的なものが多く、友情は育ちにくい環境にあるのではないかと思うことがあります。それは、自己中心的な考えが強いため、相手の個々の中に深入りするとトラブルが生じるので、それを避けるとともに、自分の中に入り込むことを認めない傾向にあるからではないでしょうか。

真の友情とは何か、友情はどう育てたらよいのでしょうか。勉強・部活動・趣味などを通して、ともに切磋琢磨し、苦しみ、悩み、協力することに、連帯感や協調する心が芽生え、人格を認め、思いやりの気持ちを持つことが、友情を育てるうえに大切だと思います。相手に対して思いやりを持つことは、ある意味では自己抑制が必要ともなると思います。「二人の友情には、一人の忍耐が必要だ」という諺もありますが、「友情は喜びを二倍にし、悲しみを半分にする」という言葉もあります。

私のところにも時々友人関係のもつれや、誤解による友情の崩壊につながるような話が入ってくることもありました。でも、生徒のみなさん、先生などのまっすぐな取組で以前にも増して絆が深まった例も聞いています。

年度が新しくなります。4月には新しい出会いも待っています。友情を育て、ともに学園生活をエンジョイできることを願っています。